

＜主な取組＞

- 9-① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力を県内外で広く伝えとともに、認知度向上や受入態勢の充実に取り組みます。
- 9-② 歴史的資料や文化財等を適切に収集・保護・保存するほか、デジタル技術の活用等による情報発信などの新たな価値の創出に組み、地域活性化を推進します。
- 9-③ 地域の祭りや伝統芸能などについて、鑑賞や体験機会の充実に取り組み、継承を促進します。
- 9-④ 県民、特に子どもたちがふるさと青森の歴史や自然、文化への理解を深め、郷土に誇りを持つことができる取組を推進します。

＜主な事業等＞

主な取組	事業等名	R6決算額 (千円)	取組内容・評価（●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等）
9-①	「北海道・北東北の縄文遺跡群」保存・活用推進事業	39,259	●「北海道・北東北の縄文遺跡群」を次の世代に守り伝えていくため、関係道県及び市町と共同で設置する包括的保存管理体制の下、適切な保存と活用を推進するほか、登録直後の関心の高さを活かして、縄文遺跡群の価値や魅力を発信する。 ▶縄文遺跡群世界遺産協議会及び縄文遺跡群世界遺産専門家委員会の開催や、4道県公式ガイドブック映像の多言語化を実施。 ▶4道県や東京でのフォーラム開催に加え、名古屋フォーラムではパネル展を併せて開催。京都では京都駅前のビルで縄文遺跡群の展示を実施。 ▶公式ウェブサイトでの情報発信により、登録3周年を契機とした更なる来訪促進を図った。フォーラム等の開催を通して世界遺産を管理する新潟県との交流や県外事務所との連携が進んだ。
9-①	「青森の縄文遺跡群」保存・活用事業	57,030	●「青森の縄文遺跡群」を適切に保存・活用していくため、県民への価値の伝達と保護意識を高める普及啓発、認知度向上に向けた県外プロモーション、関係市町の受入態勢の充実にに向けた遺跡施設等の整備に対する支援等を行う。 ▶3周年記念催事、来訪周遊促進企画（スタンプラリー）、出前講座（9回）を開催。周年記念催事では計14,522人が三内丸山遺跡センターを訪れ、スタンプラリーでは延べ8,997組が各遺跡を訪れたことから、県民への価値の伝達や認知度向上など普及啓発につながっていると見られる。更なる普及啓発を図るため、今後も各種取組を実施するほか、航空会社機内誌への広告掲載など国内外へのPRを進める。 ▶ガイド養成講座の開催、補助金交付による縄文あおりプロモーション事業（採択3件）等の普及啓発を実施。 ▶遺跡の保存・活用団体を対象としたガイド育成等に資する実証事業（採択5団体）、関係者会議を開催。民間団体や関係市町と連携及び情報共有を行うことで、受入態勢の充実に繋がった。

主な 取組	事業等名	R6決算額 (千円)	取組内容・評価（●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等）
9-①	「青森の縄文遺跡群」情報発信 拠点関連事業	74,849	●「青森の縄文遺跡群」の価値や魅力を国内外へ浸透させ、来訪・周遊を促進するため、ＪＲ青森駅東口ビルの「あおり縄文ステーションじょもじょも」において、関係市町と連携の上、各構成資産の一体的な情報発信を行う。 ▶県内外に広く認知度向上及び来場促進を図るため、展示作品制作プロモーションを実施し、県内アーティストによる「青森の縄文遺跡群」をモチーフとした展示作品「Jo-mon」を公開したほか、企画展やワークショップを開催。 ▶オープニングセレモニーを実施。ＪＲ東日本、青森商工会議所、青森市、青森県の４者による駅周辺の賑わい創出を目的としたイベント等と併せて、クイズラリーや土器に触れる体験会等の“縄文体感”イベントを開催。（３回、延べ6,019人来場） ▶駅ビル内にサイネージ広告を掲出したほか、帰省客・観光客が多い８月に、ＪＲ新青森駅でバナー広告を実施。オープン効果もあり、令和６年度の来場者数は、当センターが目標値として掲げた6万人を大きく上回る約16万２千人となった。バナー広告を実施した８月の来場者数は、オープン直後の５月に次いで多く、一定の効果があつたと見られる。今後はオープン効果が薄れていく中で来場者を確保していくため、制作した展示作品の活用や企画展の定期的な実施により、ＰＲを図っていく必要がある。
9-②	「みんなあつまれ！ 三内丸山遺跡」 保存・活用事業	18,858	●世界文化遺産である三内丸山遺跡の価値を未来に継承し伝えるため、幅広い世代の地域住民が参画し、保存・活用の意識を高めるとともに、国内・国外観光客への積極的なＰＲを行い、新規来館者・リピーターの増加を図る。 ▶三内丸山遺跡の「縄文」里山育成・継承体験（４回、延べ48人体験、高校生サポーター延べ８人参加） 遺跡内の自然素材を活用したムラづくり体験（５回、延べ53人体験、高校生サポーター延べ20人参加） ▶県内中学・高校生による観光客へ遺跡の価値を伝える商品の開発。応募件数113件のうち３点（エコバック等）を製品化。 ▶遺跡の価値を伝える体験メニューやプログラムの開発・実施。 地域住民や高校生などの参加者とともに、遺跡内の自然素材を活用したムラづくり体験のイベントや観光客へ遺跡の価値を伝える商品の開発を実施することで、参加者の保存・活用の意識を醸成するとともに、来館者へ三内丸山遺跡の価値や魅力を伝えることができた。特別メニュー等の実施を通して、外国人来館者数の増加に寄与したと考えられる。（外国人来館者数9,642人）

主な 取組	事業等名	R6決算額 (千円)	取組内容・評価（●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等）
9-③	記録で紡ぐ！無形民俗文化財継承推進事業	3,365	● 県指定無形民俗文化財について、動画撮影等による記録の作成を行い、継承につなげるツールとして、動画による記録作成マニュアルを制作するとともに、将来の担い手育成として幅広く民俗芸能に触れる機会を創出する。 ▶ 「誰でもできる記録作成マニュアル」の制作。（継承方法の拡充） 令和8年度のマニュアル作成に向け、県無形民俗文化財のうち芸能に係る4団体をモデル団体として抽出。令和6年度は弘前大学と業務委託契約を締結し、以下の2団体の記録作成を実施。 ・吉野田獅子踊保存会 ・金ヶ沢鶏舞保存会 ▶ 「民俗芸能の上演・体験会」の開催。（県民への情報発信と担い手の確保） 県内外から、こどもを含め様々な人が集まる三内丸山遺跡の縄文祭りにおいて、民俗芸能上演・体験会を実施。（216人観覧、55人体験） 「継承方法の拡充」のための取組は順調に実施できたが、「県民への情報発信と担い手の確保」のための取組は効果が限定的であることが課題である。今後は保存団体の発表機会や、無形民俗文化財に興味・関心の薄い層が民俗芸能に触れる機会を更に創出し、将来の担い手育成につなげる。
9-④	県立郷土館博物館活動	10,123	● 県民が、ふるさと青森の歴史や自然、文化などについて、幅広い理解を得られるよう、郷土に関する資料の調査研究を行うとともに、講演会、観察会、出前授業等の教育普及活動や展示事業、資料のデジタル化・公開等の取組を行う。 ▶ 教育普及活動として、土曜セミナー（11回、226人参加）、自然観察会（1回、21人参加）、あおもり街かど探偵団（1回、12人参加）を実施。参加者の学習を支援し、郷土に関する理解を深めることができた。 博物館の仕事普及啓発事業として講演会（1回、31人参加）、出前授業（7回、175人参加）、「夏・冬休みこどものくに」（2回、95人参加）を実施。 ▶ 展示事業として、サテライト展「缶詰王国あおもり～缶詰の歴史と食文化～」(6,104人観覧)を開催し、県立高校等と連携した関連事業を実施。また、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育センターと共催展（221人観覧）、J R 青森駅ビルとの連携展（3,310人観覧）、弘前大学資料館との共催展（412人観覧）を実施。これらの機会を通して、県民が資料に触れる機会を創出し、郷土への関心を高めることができた。 ▶ 資料210点をデジタル化し、1,805点を公開。外部からの資料利用希望促進及び県民の学習意欲の向上につながった。

＜指標＞

No.	指標	基準値 (現状値)	目標値 (R10)	R6	R7	R8	R9	R10
① ②	三内丸山遺跡センター来館者数	(R4) 207,095人	210,000人／年	233,687人				
③	無形民俗文化財の民俗芸能に係る保存団体のうち活動中の団体数	(R5) 338団体	353団体	(R5) 338団体 (各年調査)				
④	県立郷土館ホームページアクセス数	(R5) 26,953件	30,000件／年	32,077件				

＜今後の方向性＞

- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の認知度向上（県内外への情報発信等）による来訪・周遊の促進、幅広い世代の理解促進や保護意識の向上
- 地域の祭りや伝統芸能の鑑賞や体験機会の充実（こども民俗芸能大会、テレビでの発信等）
- 文化財のデジタル化等による新たな価値の創出と地域活性化の推進